

再考せよ 宇治原子炉

宇田原子力 委員長表明

何より地元協力 無理押し避けたい

関西に建設する予定の水泳プール型原子炉(出力二千キロワット)は、設置場所の宇治市について地元が強く難航しているが、宇田原子力委員長は一日の記者会見で「地元の反対を押し切つてまで宇治市に決めることは再考する必要がある。無理に宇治市に

極端な説には術なし

沈痛な面持…湯川博士

宇田原子力委員長の発言について、進行する気は、はじめから少しも研究用原子炉設置準備委員湯川秀樹博士は一日後、京都の自宅で「宇田さんの意見はもっともで、私も地元の反対を押し切つて

にできる」という結論に達した。しかし関係の及ぶ広い範囲の地元が心配される気持はよくわかるので、さういふ人々に納得してもらえないことは絶対に必要だと考えたから、いまも京大、阪大の委員の先生方が絶えず努力して下さっているわけだ。

「もっともな発言 阪大伏見湯川教授(学術会議原子力特別委員長)の話 用原子炉を置く場所として、宇治でなければならぬ積極的な理由があるわけではない。準備委員会で決めたのは、あくまでも第一候補地であり、十分な対策さえあれば、宇治でも危険ではない」として、だ。交通の便からいえば、候補の一つにおかれた信太山でも捨てたものでは無い、水の便についても、はじめ考えたほど困らないだろう。この点宇田委員長の発言は、世論にさからうまい、固執するのは意味ないように思う。

中共へ物理学の権威 今春30氏派遣を計画

学術会議

学術会議の方で正式に申請して来たらよく検討したい。

日本学術会議では、三月の原子力委員湯川秀樹、朝水敏一郎、東京教育大校長、菊池正士、東大原子核研究所長、伏見湯川教授らの理論物理学の権威をはじめとしたわが国の物理学者約三十人を学術会議代表として中共へ送ることに協議している。この物理学者団訪問の話は、一昨年中国科学院長郭沫若氏が来日の際、湯川博士と郭氏との間に話があったことがきっかけで、昨年夏中共を訪れた理論物理の坂田昌一(名大教授)が正式に招待の依頼を受けてから具体化し、日本物理学会内で入選していたもので、日本側の態度が決り次第正式に中共から招待が来ることになった。中共側は訪問学者団の顔触れに湯川、朝水、菊池、伏見氏が加わり、湯川氏も団長として参加するものとみられる。一行の滞在期間は約一月間、できれば三月中に出発したいというが、旅券問題や国内の原子力問題との関係もあり本決りはまだ少し遅れる模様である。

湯川 秀樹氏



朝水 敏一郎氏

学術会議会長の話 人は物理学会でやっているがまだ中共から正式に招待状が来ないのだから、はっきりいえない。旅券は何ともいえない。中川外務省アジア局長の話 学術会議からまだ正式な話が来ていないので、一行の顔触れ、旅券発給については何ともいえない。学術会議の方で正式に申請して来たらよく検討したい。



菊池 正士氏



伏見 康治氏

「もっともな発言 阪大伏見湯川教授(学術会議原子力特別委員長)の話 用原子炉を置く場所として、宇治でなければならぬ積極的な理由があるわけではない。準備委員会で決めたのは、あくまでも第一候補地であり、十分な対策さえあれば、宇治でも危険ではない」として、だ。交通の便からいえば、候補の一つにおかれた信太山でも捨てたものでは無い、水の便についても、はじめ考えたほど困らないだろう。この点宇田委員長の発言は、世論にさからうまい、固執するのは意味ないように思う。

「もっともな発言 阪大伏見湯川教授(学術会議原子力特別委員長)の話 用原子炉を置く場所として、宇治でなければならぬ積極的な理由があるわけではない。準備委員会で決めたのは、あくまでも第一候補地であり、十分な対策さえあれば、宇治でも危険ではない」として、だ。交通の便からいえば、候補の一つにおかれた信太山でも捨てたものでは無い、水の便についても、はじめ考えたほど困らないだろう。この点宇田委員長の発言は、世論にさからうまい、固執するのは意味ないように思う。

「もっともな発言 阪大伏見湯川教授(学術会議原子力特別委員長)の話 用原子炉を置く場所として、宇治でなければならぬ積極的な理由があるわけではない。準備委員会で決めたのは、あくまでも第一候補地であり、十分な対策さえあれば、宇治でも危険ではない」として、だ。交通の便からいえば、候補の一つにおかれた信太山でも捨てたものでは無い、水の便についても、はじめ考えたほど困らないだろう。この点宇田委員長の発言は、世論にさからうまい、固執するのは意味ないように思う。